

平成29年度病虫害発生予察予報第7号（10月）

平成29年10月6日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
かんきつ類 (温州みかん)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	平年並(中央) <u>多(中央)</u> 少(中央) やや少(中央) 少(中央)
かんきつ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(中西、西)</u> 、少(東、中央) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東、中西)</u> 、やや少(西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東、西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東、西) <u>多(県下全域)</u>
促成ナス	ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(東)</u> 、少(中央) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u>

※ ( ) 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

## I 気象予報（高松地方気象台10月5日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞10月7日から11月6日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

向こう1ヶ月の平均気温は高い確率60%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は1週目は高い確率80%です。2週目は平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	30	60
		降水量	20	40	40
		日照時間	40		40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80
2週目		20	40	40
3～4週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：10月7日（土）～11月6日（日）

1週目：10月7日（土）～10月13日（金）

2週目：10月21日（土）～10月20日（金）

3～4週目：10月21日（土）～11月3日（金）

## II 病害虫発生予想

### 1 カンキツ（温州みかん）の病害虫

#### 1) そうか病

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

(1) 9月の調査では発生面積はやや少なめ、発病程度は平年並であった。

(2) 10月の降水量は平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

#### 2) 黒点病

予 想 発生量：やや多（中央部）

根 拠

- (1) 9月の調査では発生面積は平年並、発病程度は低かった。
- (2) 10月の降水量は平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

#### 対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

### 3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

#### 根 拠

- (1) 9月の調査では発病が見られなかったが、10月の降水量は平年並～多めと予想されているため発生が見られると考えられる。

#### 対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

### 4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや少（中央部）

#### 根 拠

- (1) 9月の調査では発生面積は平年の1/2程度であり、密度も低かった。
- (2) 10月の降水量は平年並～多めと予想されているが、気温が高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

#### 対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

### 5) カメムシ類

予 想 発生量：多（中央部）

#### 根 拠

- (1) フェロモントラップへの誘殺数が8月後半から増加し始め、9月は県下全域で多めとなったため、10月2日に注意報を発令した。地域によって発生量が異なるが、被害が発生している園地もある。

#### 対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除する。台風などによる強風の後、園地に飛来することもあるので注意する。

## 2 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

### 1) そうか病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、少（東部、中央部）

#### 根 拠

- (1) 9月の調査では県中西部、西部で発生が見られた。いずれの地域も発生面積は平

年に比べ多めであったが、発生程度は平年以下であった。

(2)10月の降水量は平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

#### 対 策

(1)幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

### 2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部、中西部）、やや少（西部）

#### 根 拠

(1)9月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年より多めであったが、他の地域は平年以下、発病程度は県下全域で平年以下であった。

(2)10月の降水量は平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

#### 対 策

(1)密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2)前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

### 3) かいよう病

予 想 発生量：多（中西部）、少（東部、中央部、西部）

#### 根 拠

(1)9月の調査では県中西部、西部で発生が見られた。中西部の発生面積は平年の2倍以上であったが発病程度の高いほ場は見られなかった。西部はごくわずかに発生が見られた程度であった。

(2)10月の降水量は平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

#### 対 策

(1)銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

### 4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部、西部）

#### 根 拠

(1)9月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部でやや多めであったが、他の地域は平年以下であった。発生程度は全般的に低めであった。

(2)10月の降水量は平年並～多めと予想されているが、気温が高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

#### 対 策

(1)薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

### 5) カメムシ類

予 想 発生量：多（県下全域）

## 根 拠

(1) フェロモントラップへの誘殺数が8月後半から増加し始め、9月は県下全域で多めとなったため、10月2日に注意報を発令した。地域によって発生量が異なるが、被害が発生している園地もある。

## 対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除する。台風などによる強風の後、園地に飛来することもあるので注意する。

## 3 促成ナス

### 1) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（東部）、少（中央部）

#### 根 拠

(1) 9月の調査では県東部でのみ発生が見られたが発生面積、発生程度とも平年並であった。

(2) 10月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

(3) 9月6半旬のフェロモントラップ誘殺数は安芸市で平年のほぼ2倍、香南市野市町は1.5倍、南国市は6倍と増加傾向にある。

#### 対 策

(1) 開口部にネット被覆を行い、成虫の侵入を防止する。

(2) 薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

### 2) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（東部）、やや多（中央部）

#### 根 拠

(1) 9月の調査では発生程度は県東部、中央部とも広範囲に発生が見られた。発生面積は県東部では平年より多めであったが、中央部は平年並であった。発生程度はいずれの地域も平年並であった。

(2) 10月の気温は高めと予想されているため、密度が増加すると考えられる。

#### 対 策

(1) 防除効果が高い薬剤が少ないので、開口部のネット被覆（1mm目以下）を行うとともに、天敵昆虫の利用など、他の防除方法も組み入れる。

(2) 薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

### 3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部）

#### 根 拠

(1) 9月の調査では県東部、中央部とも広範囲に発生が見られた。発生面積は県中央部で平年より多めであったが、東部は平年並であった。発生程度はいずれの地域も平年以下であった。

(2) 10月の気温は高めと予想されているため、密度が増加すると考えられる。

#### 対 策

(1) 防除効果が高い薬剤が少ないので、開口部にネット被覆（0.4mm目以下が望まし

- い) を行うとともに、天敵昆虫の利用など、他の防除方法も組み入れる。
- (2) 薬剤防除を行う場合、発生初期に生長点付近を中心に防除を行う（成虫は新葉の葉裏に産卵する）。

**農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。**

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫      etc.